



2024年10月29日

各 位

会 社 名 S B I インシュアランスグループ株式会社
代 表 者 名 代表取締役執行役員会長兼社長 乙部 辰良
(コード番号：7326 東証グロース市場)
問 合 わ せ 先 取締役執行役員 大和田 徹
TEL. 03-6229-0881

2025年3月期中間連結会計期間の決算速報のお知らせ

当社及び当社グループの決算手続は未だ完了しておりませんが、当社株主をはじめ投資家の皆様に対して適時・適切な情報開示を積極的に行うため、当社グループの2025年3月期中間連結会計期間（2024年4月1日～2024年9月30日）の決算速報（日本基準）を以下のとおりお知らせいたします。

なお、当社の2025年3月期中間連結会計期間の決算発表は2024年11月12日を予定しております。

1. 2025年3月期中間連結会計期間 決算速報（日本基準）

	2024年3月期中間 連結会計期間（実績） （2023年4月1日～ 2023年9月30日）	2025年3月期中間 連結会計期間（速報） （2024年4月1日～ 2024年9月30日）
経常収益	52,507百万円	57,362百万円
経常利益	4,851百万円	4,867百万円
親会社株主に帰属する中間純利益	1,667百万円	1,626百万円
1株当たり中間純利益	67円18銭	65円53銭

当中間連結会計期間の経常収益は、保有契約件数が堅調に増加したことが主な要因となり、前年同期に比べ4,854百万円増加（前年同期比9.2%増加）する見通しです。利益面では、前年同期に一過性要因として計上した生命保険事業の責任準備金戻入額の影響などにより、経常利益が前年同期に比べ15百万円の増加（同0.3%増加）にとどまり、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期に比べ41百万円減少（同2.5%減少）する見通しです。

生命保険事業においては、医療保険の一部について実施していた再保険の出再比率変更などによる責任準備金戻入額を一過性の要因として前年同期に計上しており、当中間連結会計期間にはその一過性要因がないことから、同事業のセグメント利益は前年同期を下回る見通しです。しかしながら、同事業の団体信用生命保険及び個人保険ともに保有契約件数の堅調な増加により、一過性要因を除く保険収支は前年同期に比べ607百万円増加する見通しであること、加えて運用収支が前年同期に比べ486百万円増加する見通しで推移するなど、業容は着実に拡大しております。また、損害保険事業及び少額短期保険事業についても着実な業容拡大を続けています。

<連結業績予想への影響について>

通期の生命保険事業のセグメント利益は、足元の順調な業容拡大に加え、当年度末において保険業法施行規則第69条第5項の規定に基づき積み立てた責任準備金について、将来収支の改善が見込まれるため一部取り崩しを想定していることから、前年度と同水準以上での着地を見込んでおります。また、通期の連結業績予想については、前述の責任準備金の取り崩しを含めて策定していることや、当中間連結会計期間の連結業績が概ね当初予定どおりに推移していることから、2024年5月9日公表の「2024年3月期決算短信」に記載いたしました2025年3月期の連結業績予想値に変更はありません。

上記の2025年3月期中間連結会計期間の決算速報に記載されている情報は、本資料発表日現在において入手可能な情報を元に作成した速報値であり、確定値ではありません。2024年11月12日に発表を予定しております2025年3月期中間連結会計期間（2024年4月1日～2024年9月30日）の決算数値は、様々な要因により、本速報値と異なる可能性があります。

2. 事業別の概況

2025年3月期中間連結会計期間（2024年4月1日～2024年9月30日）における事業別の概況は次のとおりであります。

（損害保険事業）

中古車販売店「ガリバー」を運営する株式会社IDOMと連携し、事故により同社の修理工場へ入庫された自動車の修理内容や進捗状況をスマートフォン等で適時確認出来るシステムの導入に取り組み、自動車修理プロセスの透明性を確保する態勢構築に努めました。また、株式会社仙台銀行の預金口座保有のお客様を対象に、一般に比べ割安な保険料でご加入いただくことが可能となる団体保険「よりそう介護保険（正式名称：団体総合生活補償保険）」の募集を行い、パートナー企業とのアライアンスを通じた顧客基盤の拡大にも取り組みました。こうした取り組みの結果、2024年9月末の保有契約件数（団体がん保険の被保険者数を含む）は1,304千件（前年度末比2.8%増加）となりました。

（生命保険事業）

住宅ローン専門金融機関のSBIアルヒ株式会社と生命保険募集代理店業務委託契約を締結し、同社の住宅ローンオンライン相談サービス「ビデオチャット相談」において、SBI生命保険株式会社の保険商品の販売が開始されるなど、グループシナジーを活用した販路の開拓を推進しました。また、昨年度よりコールセンターにおいて運用を開始している生成AI等のテクノロジーをバージョンアップすることにより、オペレーターの教育期間の短縮を図りつつ、これまで以上にお客様とのスムーズなやり取りを実現するなど、DX推進によるお客様の更なる利便性の向上と業務の効率化に取り組みました。こうした取り組みの結果、2024年9月末の保有契約件数（団体信用生命保険の被保険者数を含む）は574千件（前年度末比9.4%増加）となりました。

（少額短期保険事業）

SBIいきいき少額短期保険株式会社は、ペット保険の保険金支払査定へのAIの導入により、保険金支払の自動査定を開始し、処理件数の増加や処理時間の大幅な削減を実現するなど、DXの推進による業務効率化に取り組みました。また、SBI日本少額短期保険株式会社は、保険契約管理システムと家賃債務保証サービスを提供する企業の保証管理システムとの連携先の拡大に努め、賃貸住宅に入居されるお客様の利便性向上と同社の代理店である不動産管理会社の業務効率化に取り組みました。こうした取り組みの結果、2024年9月末の保有契約件数は1,037千件（前年度末比1.1%増加）となりました。

以上